

構造委員会 応用力学運営委員会 活動概況(2010～2012年度)

主査・幹事名： [主査] 高田毅士 [幹事] 竹脇 出・山田貴弘・伊藤拓海

傘下の小委員会(WGは省略)：

横断型建築リスク管理小委員会(栗田)、不均質・多相体の理論解析と応用小委員会(源栄)、構造最適化の理論と応用小委員会(高田)、力学的感性小委員会(新宮)、構造設計における冗長性と性能最適化小委員会(竹脇)、耐衝撃性能評価小委員会(濱本)、強非線形問題と予測性能小委員会(元結)

講習会・シンポ開催一覧：

2010 第59回理論応用力学講演会(主幹事学会)

2010 構造物の耐衝撃設計ガイドラインに関するシンポジウム(土木学会と共催)

2011 力学的感性に関するシンポジウム

そのほか、シェル・空間構造運営委員会等と共催で毎年コロキウム「構造形態の解析と創生」を開催

大会PD開催一覧：

2010年度：建物のトータルリスク管理に向けて

2011年度：ロバスト性・冗長性を向上させた建物の構造デザイン

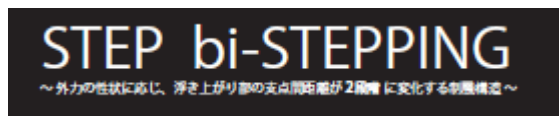
2012年度：「建築物の耐衝撃設計を考える

その他： 2011年度日本建築学会技術部門設計競技「ロバスト性・冗長性を向上させた建物の構造デザイン」実施

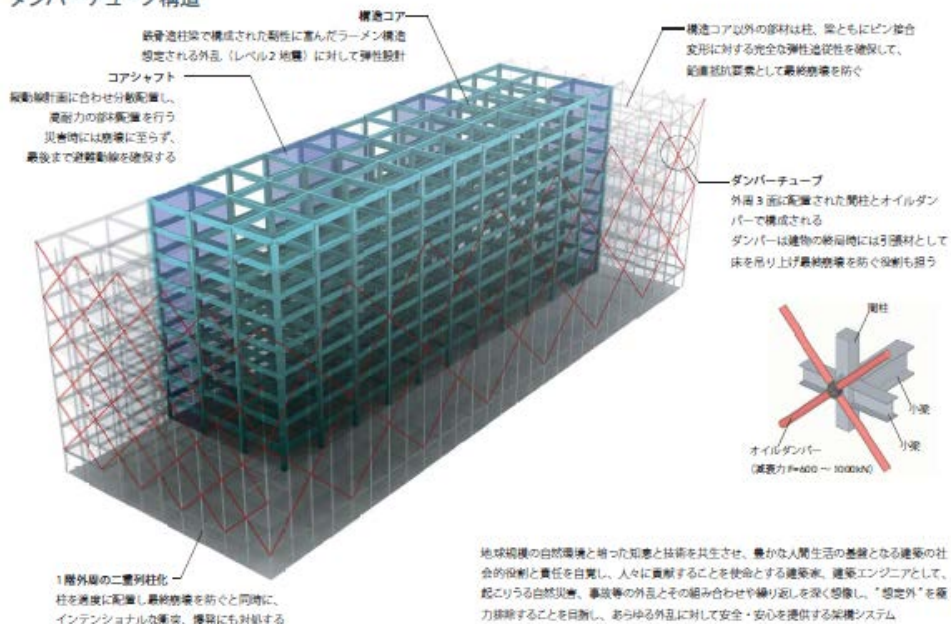
構造委員会 応力運営委員会 一押しの成果

2011年度日本建築学会技術部門設計競技「ロバスト性・冗長性を向上させた建物の構造デザイン」の実施

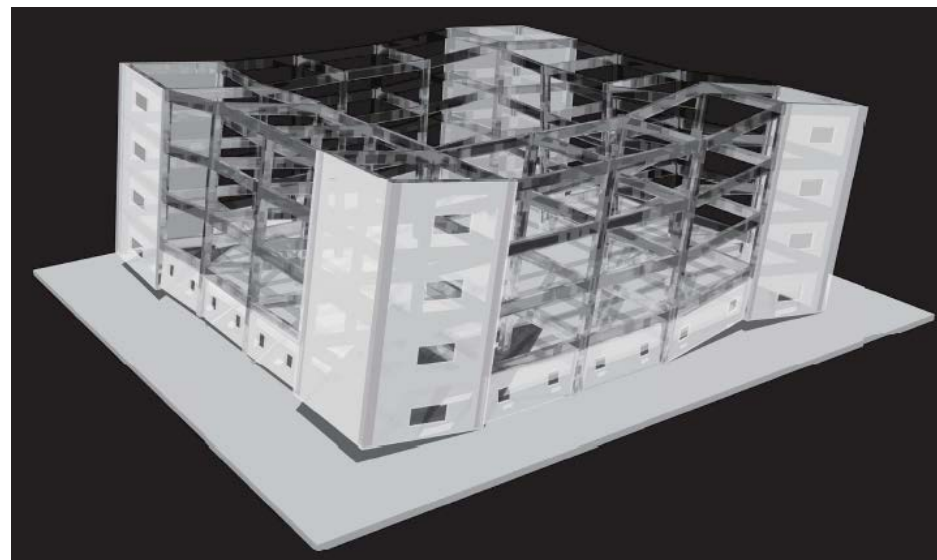
応募20作品： 最優秀賞1作品、優秀賞1作品、佳作6作品



ダンパーチューブ構造



最優秀作品



優秀作品

構造委員会 荷重運営運営委員会 活動概況(2010~2012年度)

主査・幹事名： [主査] 河井宏允 [幹事] 高橋 徹・石原 直

傘下の小委員会・WG一覧：

津波荷重WG、衝撃荷重WG、信頼性工学利用小委員会、耐震設計における地震荷重検討小委員会、風荷重小委員会、雪荷重小委員会、温度荷重小委員会、固定・積載荷重小委員会、建築物の減衰機構とその性能評価小委員会

出版物一覧：

Excelで学ぶ 地震リスク評価
実務者のための建築物外装材耐風設計マニュアル

講習会・シンポ開催一覧：

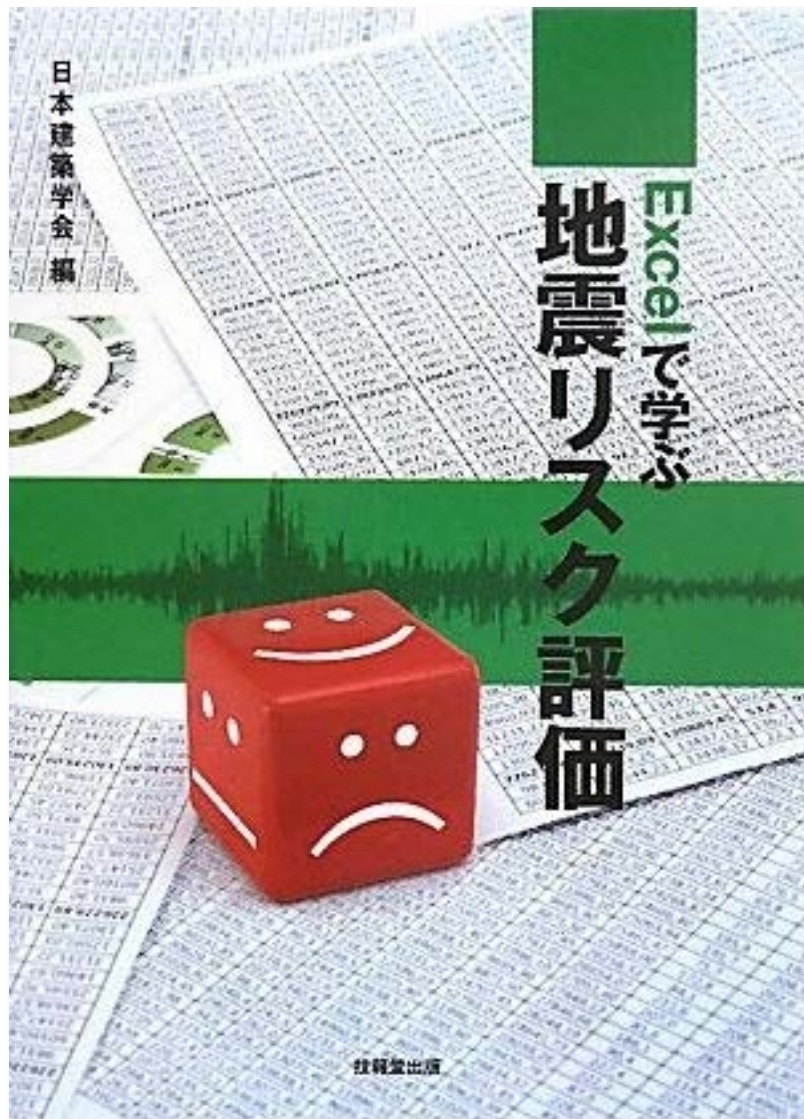
シンポジウム「雪と建築」(教材委員会と共催)
シンポジウム「建築物の減衰機構とその性能評価」
講習会「実務者のための建築物外装材耐風設計マニュアル」

大会PD開催一覧：

2010年度：これからの建築物の耐震設計に地域係数は必要か？(参加者200名)
2011年度：実践的な性能設計／地震リスクマネジメント(参加者150名)
2012年度：CFDによる風荷重評価のガイドライン作成に向けて(参加者80名)

荷重運営委員会

『Excelで学ぶ地震リスク評価』の出版



地震リスク評価の入門書で技報堂出版より2011年8月に刊行。2011年度大会PD「実践的な性能設計／地震リスクマネジメント」でも紹介し、設計におけるリスクの概念の重要性とその実践方法について討議した。

本書では、いくつかの例題をExcel（ダウンロード可能）を使って解くことで、リスクの評価方法を学ぶことができる。

構造委員会 基礎構造運営委員会 活動概況(2010～2012年度)

主査・幹事名： [主査] 中井正一 [幹事] 金子 治・内山晴夫

傘下の小委員会一覧(WGは省略)：

建築基礎構造設計指針改定小委員会	小規模建築物地盤調査小委員会
建築基礎設計のための地盤定数小委員会	杭基礎の耐震設計法小委員会
パイルド・ラフト基礎の設計法検討小委員会	液状化小委員会

出版物一覧：

小規模建築物基礎設計例集(2010年度)

講習会・シンポ開催一覧：

2010年度支部共通事業「小規模建築物基礎設計例集」講習会
(全国7会場、参加者912名)

既刊本講習会「小規模建築物基礎設計指針」(2011年度、東京、参加者87名)

大会PD開催一覧：

2010年度：基礎構造設計における地盤改良工法への期待と問題点(参加者180名)

2011年度：パイルド・ラフト基礎設計の現状と課題(参加者165名)

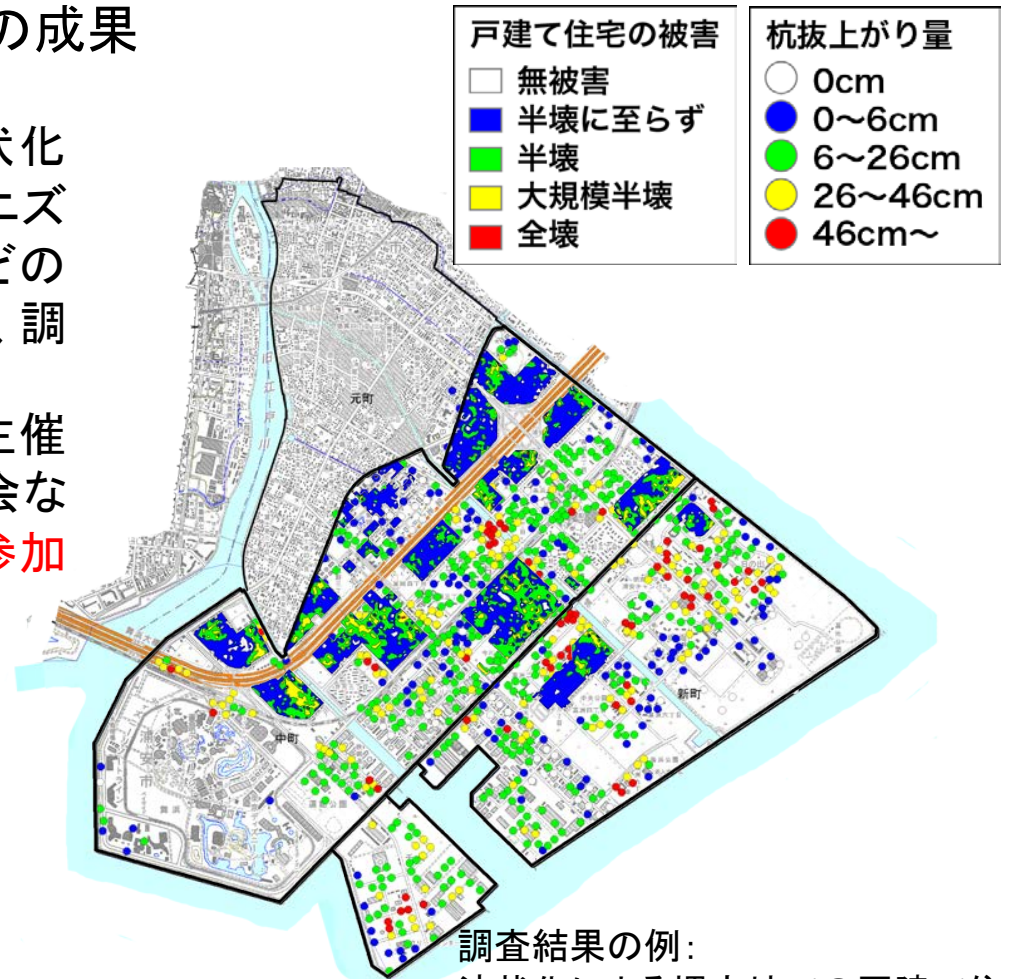
2012年度：基礎構造の地震被害と耐震設計(参加者260名)

浦安市液状化対策技術検討調査の成果

- ・東北地方太平洋沖地震による液状化被害を受け、被害実態の把握・メカニズム解明・液状化対策工法の検討などの調査検討業務を浦安市より受託し、調査検討を行った。
- ・成果は、建築学会大会PD・浦安市主催の報告会・関連3学会合同の報告会などで報告され、合計で約2,000名の参加者を動員した。



戸建て住宅地の液状化被害状況



調査結果の例：
液状化による埋立地での戸建て住宅被害と杭支持構造物周辺地盤の沈下量(=杭拔上がり量)分布被害分布に見られる著しい偏りは、埋立地盤の不均一性が原因

構造委員会 木質構造運営委員会 活動概況(2010～2012年度)

主査・幹事名： [主査] 河合直人 [幹事] 五十田博・腰原幹雄

傘下の小委員会一覧(WGは省略)：

木質構造研究成果活用・教育小委員会 木質構造性能規準検討小委員会
大規模木質構造小委員会 耐震要素・構造システム評価小委員会
伝統的木造構法の構造要素設計法小委員会
大規模木質構造の振動障害に関する小委員会
構造用木質材料の変形と破壊に関する小委員会

出版物一覧：

木質構造基礎理論(2010.12)
木質系耐力壁形式構造に関するQ&A(2011.7)
木質構造接合部設計事例集(2012.10)
限界耐力計算による伝統的木造建築物構造計算指針・同解説(2013.2)

講習会・シンポ開催一覧：

講習会「木質構造基礎理論」(2010.12)
講習会「伝統的木造建築物構造計算指針」(2013.2) ほか 計 5件

大会PD開催一覧：

2011年度：「木造禁止」を再考する
2012年度：大規模木造建築の技術的課題と解決方法

構造委員会 木質構造運営委員会 一押しの成果

『木質構造接合部設計事例集』(2012.10)

2006年版「木質構造設計規準・同解説」で接合部設計手法を体系的に整理。

単位接合部と接合部[全体]に区分。

接合部[全体]では破壊モードを考慮。

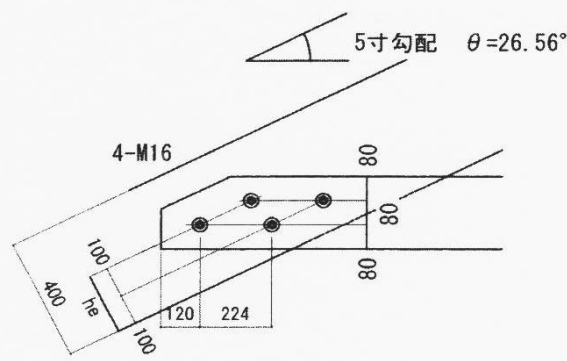
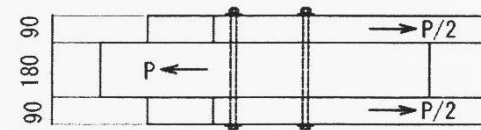
→ 実務者からは接合部設計が煩雑になったという声も。

→ 補足資料として、個々の耐力計算方法から具体的な接合部設計事例まで提示
(計算シートは書籍購入者のみ本会ホームページからダウンロード可能)。

【計算例1】接合形式 (i) : 木材側材2面せん断型 (ボルト)

【4章 設計例4 参照】

接合形式	(i)木材の主材と側材よりなる2面せん断型		Q_1	-1	Q_2	1
主材に対する荷重角度	繊維に傾斜する方向		角度 θ	26.6°		
	繊維方向			角度 θ	0.0°	
側材に対する荷重角度	繊維方向		角度 θ		0.0°	
	繊維に傾斜する方向			角度 θ	26.6°	
使用環境	Ⅲ・通常状態					
接合具	ボルト					
	径	有効長さ	1列の本数			
	d	l	n			
木部(主材)	樹種	すぎ				
	強度等級	E65-F225				
	断面(mm)	180 (l) × 400				
木部(側材)	樹種	すぎ				
	強度等級	E65-F225				
	断面(mm)	90 (l) × 240				
座掘り等欠損(mm)						
単位接合部降伏モード	モードⅣ					
接合部全体	接合種別		JC			
	iK_r		1			
許容耐力 (kN)	p_a		P_a			
	(単位接合部)		接合部[全体]			
長期 ($iK_d=1.1$)	8.37		33.49			
中長期 ($iK_d=1.43$)	10.88		43.54			
中短期 ($iK_d=1.6$)	12.17		48.71			
短期 ($iK_d=2.0$)	15.22		60.89			
主材	h_e	200	列数 (m)	2	Σr_i	Σs_i
側材	h_e	0			Σr_i	64
						Σs_i
						744



構造委員会 鋼構造運営委員会 活動概況(2010～2012年度)

主査・幹事名： [主査] 緑川光正 [幹事] 西山 功・多田元英・寺田岳彦

傘下の小委員会・WG一覧： 鋼構造座屈、鋼構造接合、鋼構造素材、鋼構造制振－鋼構造制振設計指針編集WG、鋼構造耐火設計、鋼構造環境、鋼構造塑性設計、東日本大震災鋼構造被害検討WG

出版物一覧： 各種合成構造設計指針・同解説(2010.11)
鋼構造接合部設計指針(2012.3)

講習会・シンポ開催一覧：

「各種合成構造設計指針」改定講習会

(参加者:東京254名・大阪141名・広島76名・福岡65名、計536名)

「鋼構造接合部設計指針」改定講習会

(参加者:東京215名・大阪157名・名古屋124名、計496名)

既刊本講習会「各種合成構造設計指針」(参加者:東京71名)

eラーニング講習会「鋼構造設計規準－許容応力度設計法－」(2010-12年度参加者44名)

大会PD開催一覧：

2010年度:鋼構造建物の大型振動実験の今とこれから－鋼構造設計施工の高度化と合理化に向けて－

2011年度:座屈に関する設計上の諸問題－いま、新しい視点で座屈を考える－

2012年度:鋼構造のリユースの現状と今後のあり方について

『鋼構造接合部設計指針』の改定

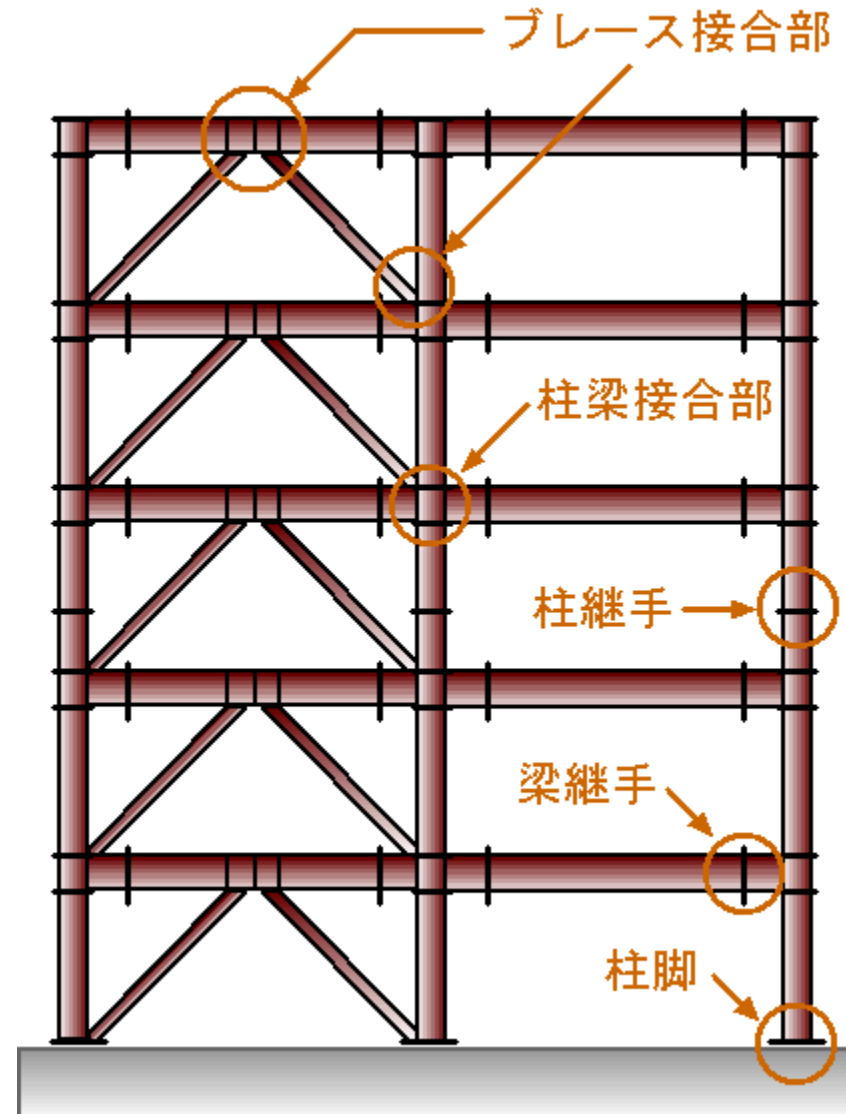
- 鋼構造建築物にとって、接合部の設計は、建築物の構造性能や安全性の根幹を成す重要な部位である。
- 当指針は、「溶接接合」および「高力ボルト接合」を用いて、「柱」「梁」および「ブレース」を接合する際に必要となる設計法を網羅的に明示するとともに、考え方を分かりやすく解説しており、構造設計必携の図書となっている。

2001年11月：初版刊行

2006年 3月：第2版刊行

2012年 3月：第3版刊行

- 「改定講習会」の実施
(参加者：東京215名・大阪157名・名古屋124名)



構造委員会 鋼構造運営委員会 一押しの成果

『各種合成構造設計指針・同解説2010』の改定

第1編 合成梁構造設計指針

1975制定 → 1985改定 → 2010改定

第2編 デッキ合成スラブ構造設計指針

(デッキプレートとコンクリートとの合成スラブ構造設計指針から名称変更)

1985制定 → 2010改定

第3編 鉄骨骨組と鉄筋コンクリート耐力壁との合成構造設計指針

1985制定 → 2010改定

第4編 各種アンカーボルト設計指針

1985制定 → 2010改定

➤ 25年を経ての改定

- ・ 社会状況の変化
- ・ 使用材料の高強度化
- ・ 合成構造の開発と新しい知見
- ・ SI単位系への移行

➤ 「改定講習会」の実施 (参加者:東京254名・大阪141名・広島76名・福岡65名)

構造委員会 鉄筋コンクリート構造運営委員会 活動概況(2010～2012年度)

主査・幹事名： [主査] 壁谷澤寿海 [幹事] 和泉信之・河野進・塩原等

傘下の小委員会・WG一覧：

2010年度-2012年度は、以下の規準または指針(仮題)の出版を目指して、各担当小委員会、WGが中心になって原案作成作業、審議中である。

- 二次設計規準作成小委員会「鉄筋コンクリート建物の保有水平耐力計算規準」
- 等価線形化法に基づく耐震性能評価指針作成小委員会「鉄筋コンクリート建物の等価線形化法に基づく耐震性能評価指針」
- RC基礎構造部材の耐震設計指針作成小委員会「鉄筋コンクリート基礎構造部材の耐震設計指針」
- 既存中層RC建物の耐震性能評価小委員会「中層既存鉄筋コンクリート造改修建物の耐震性能評価指針」
- RC規準普及WG「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説2009」
- 英語版RC規準および性能評価指針編集WG「AIJ Guidelines for Structural Calculation」

講習会・シンポ開催一覧：

- 「鉄筋コンクリート構造計算規準改定ならびに鉄筋コンクリートX形配筋部材設計施工指針」追加講習会(参加者:東京229名・東京198名)

大会PD開催一覧：

- 2010年度:鉄筋コンクリート基礎構造部材の耐震設計
- 2011年度:鉄筋コンクリート造建物の保有水平耐力計算と地震被害
- 2012年度:東日本大震災における鉄筋コンクリート建物の被害と分析

構造委員会 鉄筋コンクリート構造運営委員会

大会OSの実施：

2008年度より各年度ごとに時宜を得た研究課題に関するOSを企画して、詳細な発表論文を公募してきた。毎年20題以上の論文が採択され、ほぼ1日間にわたるセッションを構成して、活発な情報交換が行われている。

- 2010年度 RC設計規準に関する研究
- 2011年度 鉄筋コンクリート骨組・部材の実験
- 2012年度 東日本大震災による被害に関連する研究

東日本大震災における調査報告への協力：

学校校舎、公共建物を中心に組織的な被害調査を実施し、日本建築学会の速報、文部科学省の委託研究の報告書の作成等の実質的な作業を分担した。

- 2011年東北地方太平洋沖地震災害調査速報(2011.7)
- 文教施設の耐震性能等に関する調査研究報告書(2012.3)
- シンポジウム：東日本大震災からの教訓、これからの新しい国づくり「東日本大震災における鉄筋コンクリート建物の被害」(2012.3)

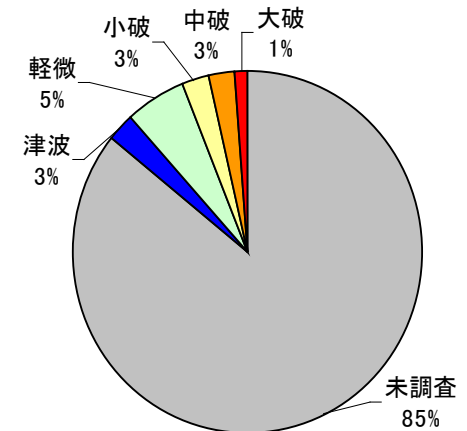


図 福島県立高校のRC校舎 (440棟)の被害率

構造委員会 プレストレストコンクリート構造運営委員会

活動概況(2010～2012年度)

主査・幹事名：

[主査] 西山峰広 [幹事] 岸本一蔵・小室 努 (～2010年度)
[主査] 深井 悟 [幹事] 岸本一蔵・河野進・菅田昌宏 (2011年度～)

傘下の小委員会・WG一覧：

PC耐震設計小委員会
新PC規準小委員会
PC材料・施工WG
ソケット基礎設計・施工WG
PC部材性能設計法小委員会
PC常時荷重設計法小委員会

大会PD開催一覧：

2011年度：プレストレストコンクリート建築物性能設計・施工指針(案)制定に向けてーどう変わるのか？PCの設計と施工、E-ディフェンスでの実験もふまえてー

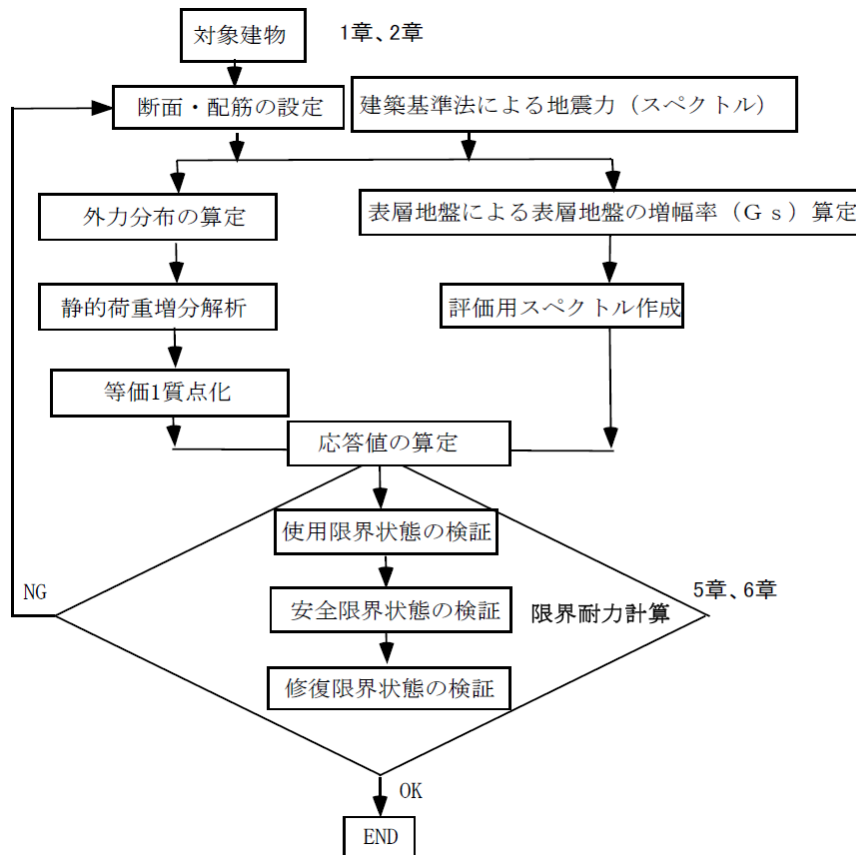
その他：

PC工学会『東日本大震災 PC構造物災害調査報告書』に協力

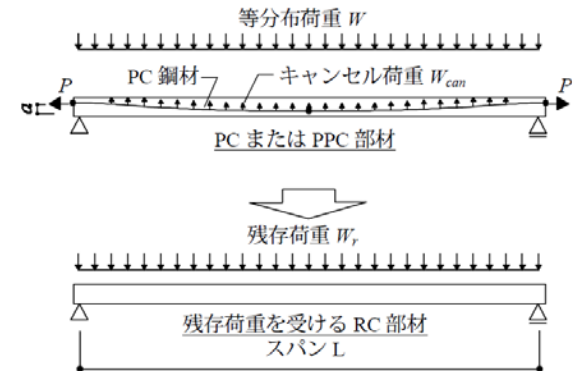
構造委員会 プレストレストコンクリート構造運営委員会

PC性能評価型設計指針(案)の原案作成。
 材料レベルの損傷に基づいて建物の性能評価が可能となる指針(案)。
 ひび割れ幅、長期たわみ、等価粘性減衰定数等について最新の知見収録。

・耐震設計フロー(等価線形化法)

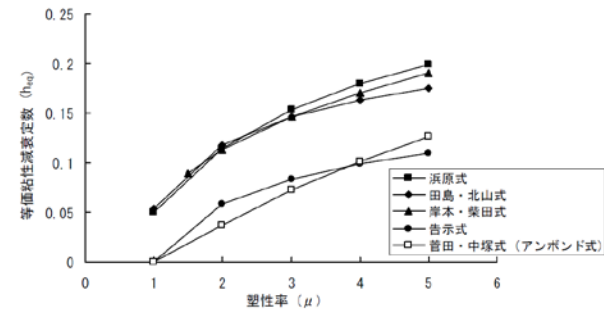


・長期たわみ算定法(プレストレス考慮)



解図 9.1.1 残存荷重長期たわみ算定法概念

・等価粘性減衰定数



解図 3.4.5 等価粘性減衰定数 h_{eq} - 塑性率 μ の比較

構造委員会 鋼コンクリート合成構造運営委員会 活動概況(2010～2012年度)

主査・幹事名： [主査] 河野昭彦 [主査] 倉本 洋・藤永 隆

傘下の小委員会一覧(WGは省略)：

鋼コンクリート接合部設計指針作成小委員会、SRC規準改定小委員会、CES構造性能評価指針検討小委員会、合成構造設計規準作成小委員会、コンクリート充填鋼管構造設計ガイドブック作成小委員会、FRP合成構造の建築への適用性検討小委員会、そのほか 2WG

出版物一覧：

鋼コンクリート構造接合部の応力伝達と抵抗機構(2011.2)
コンクリート充填鋼管構造設計ガイドブック(2012.10)

講習会・シンポ開催一覧：

講習会「鉄骨部材と鉄筋コンクリート部材が結合される接合部の設計法」(2011.2・3)
第9回複合・合成構造の活用に関するシンポジウム(土木学会と共催、2011.11)
講習会「コンクリート充填鋼管構造設計ガイドブック」(2012.10)

大会PD開催一覧：

2010年度：鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準改定に向けて
2011年度：合成構造の進化を目指して－合成構造設計規準の提案－
2012年度：今後の合成構造の展開を考える

構造委員会 鋼コンクリート合成構造運営委員会 一押しの成果

CES構造性能評価指針検討小委員会

CES構造とは？ → Concrete Encased Steel 構造の略で、
鉄骨と繊維補強コンクリートのみで構成される新建築合成構造

特徴：SRC構造と同等以上の構造性能を有し、
設計・施工の簡略化、工期の短縮が可能

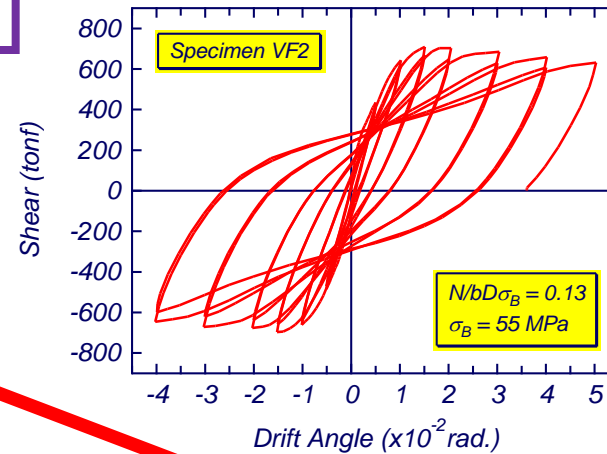
構造実験成果を活用し、**限界耐力計算**をベースとした構造性能
評価指針の開発

柱、梁

柱梁接合部

耐震壁

フレーム



構造委員会 シェル・空間構造運営委員会 活動概況(2010～2012年度)

主査・幹事名： [主査] 小河利行 [幹事] 藤本益美・竹内 徹

傘下の小委員会一覧(WGは省略)： 8つの小委員会および5つのWGで活動

立体骨組構造小委員会、耐震性能評価小委員会、RCシェル構造小委員会、構造設計小委員会、衝撃作用連成問題小委員会、空間構造における数値解析小委員会、ケーブル・膜構造小委員会、構造形態の解析と創生小委員会

出版物一覧： 「ラチスシェルの座屈と耐力」(2010.6)

講習会・シンポ開催一覧：

計9回のセミナー、コロキウムを実施(参加者763名)

大会PD開催一覧：

2011年度：ラチスシェルの黎明期を支えた理論・技術・施工—先人の手法をどう学ぶか—(参加者157名)

2012年度：大空間施設の総合的耐震性能を考える—東日本大震災を経験して—(参加者225名)

国際活動：

多くの委員は国際シェル空間構造学会(IASS)、アジア太平洋シェル・空間構造会議(APCS)の日本側窓口、運営委員として参加。3回の国際会議(2010/Shanghai、2011/ London、2012/Seoul)を実施。2006年度より韓国空間構造学会より空間構造物に対する設計指針資料作成協力委託を受け対応。

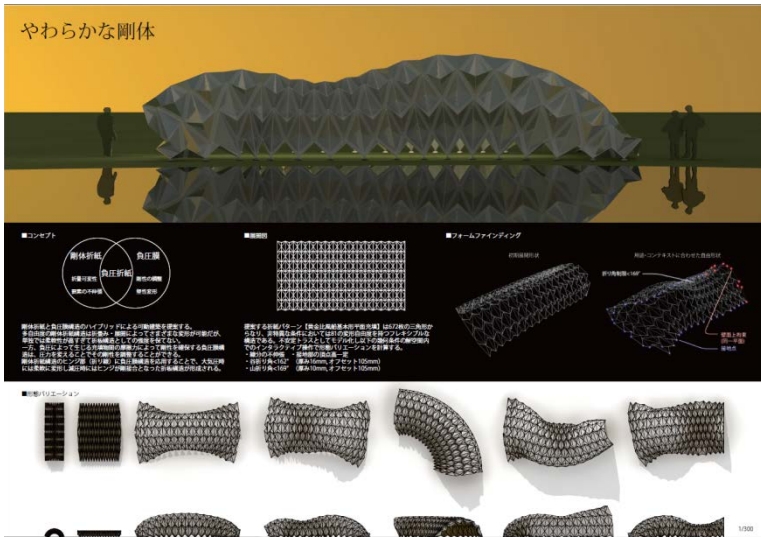
構造委員会 シェル・空間構造運営委員会 活動概況(2010~2012年度)



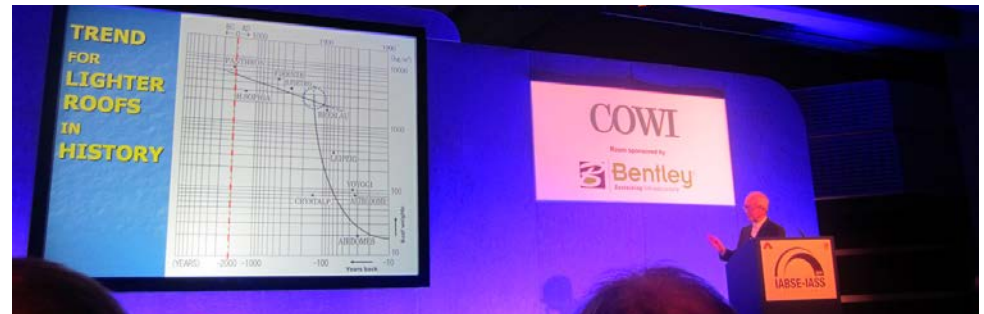
『ラチスシェルの座屈と耐力』
2010年6月刊行



2012年大会PD「大空間施設の総合的耐震性能を考える—東日本大震災を経験して—」(参加者225名)



コロキウム構造形態の解析と創生2011
最優秀作品



2011年IABSE-IASS国際会議(London)の開催支援

構造委員会 振動運営委員会 活動概況(2010～2012年度)

主査・幹事名：〔主査〕福和伸夫 〔幹事〕壇一男・宮本裕司・渡壁守正

傘下の小委員会一覧(WGは省略)：

地震荷重小委員会、地盤震動小委員会、基礎構造系振動小委員会、免震構造小委員会、建築構造物振動制御小委員会、強震観測小委員会、構造ヘルスマニタリング小委員会

出版物一覧： 建築構造物の振動制御入門

講習会・シンポ開催一覧：

建物と地盤の動的相互作用の簡易計算法(東京・大阪)、第38回～40回地盤震動シンポジウム短周期地震動の発生要因はどこまで解明されたか、2011年東北地方太平洋沖地震で何が起こったかー巨大地震に備えるための地盤震動研究(その1)、同一巨大地震に備えるための地盤震動研究(その2)、第30回～32回地盤震動地域交流会、建築構造物の振動制御の現状、増大する地震動レベルと今後の耐震設計ー3.11を踏まえた意識調査を基に、第9回構造物と地盤の動的相互作用シンポジウム

大会PD開催一覧：

兵庫県南部地震から15年ー建物への入力地震動はどこまで解明されたか、活断層を考慮した設計用地震荷重、強震観測とモニタリング技術が災害時に果たすべき役割

構造委員会 振動運営委員会 一押しの成果

震災4日前の2011年3月7日(月)

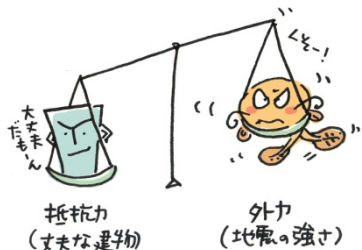
シンポジウム 阪神・淡路大震災を振り返り、来たる大地震に備える — 建築振動研究に課せられたもの —

兵庫県南部地震以降の16年間の振動研究を総括

- ① 強震動予測と地震荷重
- ② 強震観測とモニタリング
- ③ 表層地盤増幅と実効入力動
- ④ 耐震と免震、制震
- ⑤ 地震応答と耐震設計

東日本大震災

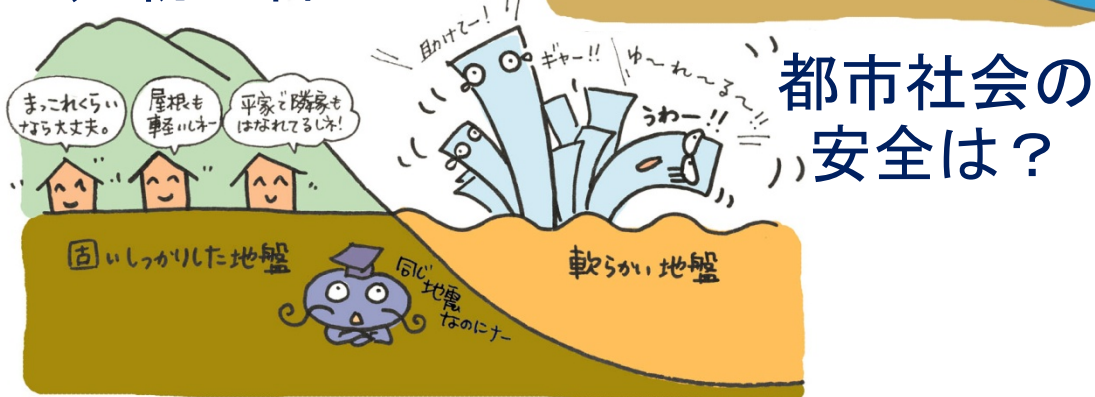
建物の抵抗力は？



PD、シンポで東日本大震災での強震動、建物応答、免震・制振挙動を分析・議論。今後の巨大地震での災害被害軽減に資する振動研究のあり方を模索中。



建物応答は？



都市社会の安全は？

強震動は？



構造委員会 仮設構造運営委員会 活動概況(2010～2012年度)

主査・幹事名：

[主査] 森脇登美夫 [幹事] 軽部正彦・室井博

傘下の小委員会一覧(WGは省略)：

地盤アンカー小委員会(+2WG)
仮設構造計画小委員会(+1WG)
山留め設計施工指針改定準備小委員会(+3WG)
期限付き建築物小委員会

講習会・シンポ開催一覧：

eラーニング講習会「地盤アンカーの設計・施工に関するQ&A」(2011.7.1～)
eラーニング講習会「仮設構造物計画の手引き」(2010.8.10～)

大会PD開催一覧：

2011年度：期限付き建築物の更なる可能性を探る－計画から期限満了まで－

構造委員会 仮設構造運営委員会 これまでの成果

仮設構造物の基本的な要求性能(安全性・経済性)の追求とともに、環境への影響に関する諸問題についても検討しています。

既出版物になります。下記のような出版を通じて、会員への情報発信をはかっています。

仮設構造物計画の手引き

Planning Manual for Structure of Temporary Construction



建築部材のリユースマニュアル ・同解説



Manual for Re-using Structural

地盤アンカーの 設計・施工に関するQ&A

Ground Anchorages Questions & Answers for Building Engineers



構造委員会 壁式構造運営委員会 活動概況(2010～2012年度)

主査・幹事名： 勅使川原正臣[2010主査]、稲井栄一[2010幹事、2011-2012主査)、楠 浩一[2010-2012幹事]、五十嵐 泉[2010-2012幹事]、時田伸二[2011-2012幹事]

傘下の小委員会・WG一覧：

- ・ 既存メーソリー構造耐震診断・改修検討小委員会
- ・ 壁式鉄筋コンクリート造設計・計算規準作成小委員会
- ・ 海外組積造耐震性検討小委員会
- ・ 東日本大震災壁式構造調査報告書作成WG

出版物一覧：

- ・ 壁式構造配筋指針・同解説(2013年2月)
- ・ 壁式鉄筋コンクリート造建物の構造的な性能評価型構造設計指針(案)・同解説(2010年11月、HP版;AIJデジタルライブラリー)

講習会・シンポ開催一覧：

- ・ シンポジウム「コンクリート連続体の構造デザインの可能性」(シェル・空間構造運営委員会と共催、2011.11)
- ・ 「壁式構造配筋指針」改定講習会(2013.2)

大会PD開催一覧：

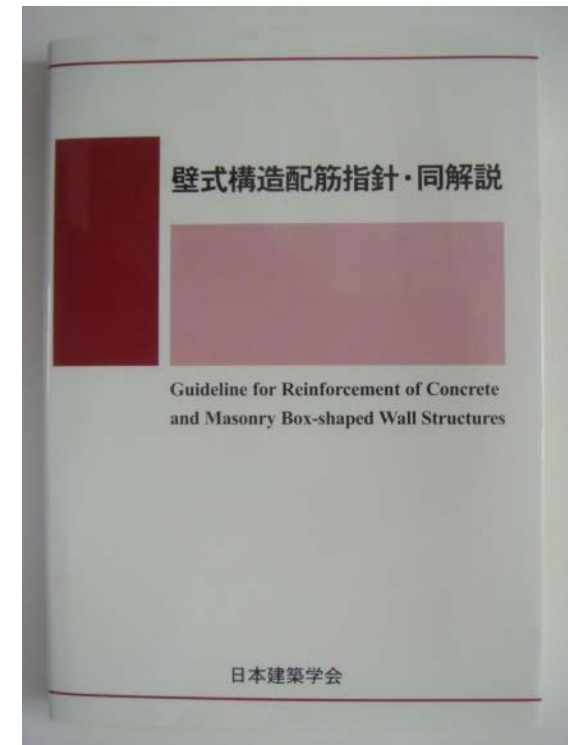
- ・ 2010年度：海外組積造建築の地震被害とその対策
- ・ 2012年度：壁式鉄筋コンクリート造設計・計算規準改定と保有耐力計算

壁式構造配筋指針の改定

1987年制定以来、26年ぶりの改定

壁式構造関連の告示の制定・改正、日本工業規格の改定、
建築工事標準仕様書の改定に対応

- (1) 本会 JASS5 (鉄筋コンクリート工事) および JASS7 (メーソリー工事) の内容と整合
- (2) 施工誤差を考慮した「設計かぶり厚さ」およびコンクリートやグラウトの充填性を確保できる配筋納まりの記載
- (3) 一般的に普及している折曲げ機械による配筋納まりを検討し、配筋要領を本文解説に記載
- (4) 「中層型枠コンクリートブロック造」の追加、「石塀」の削除



構造委員会 原子力建築運営委員会 活動概況(2010～2012年度)

主査・幹事名： [主査] 瀧口克己(東京工業大学名誉教授)
[幹事] 西村 功(東京電力) (2010年度)
中川進一郎(中部電力) (2011～2012年度)

傘下の小委員会・WG一覧：

耐震裕度小委員会(2010年度)
耐震構造評価小委員会(2011～2012年度)
RC-N規準改定WG(2011～2012年度)
原子力建物維持管理小委員会(2010～2011年度)
原子力建築物維持管理小委員会(2012年度)
高経年化評価WG(2012年度)
地震後点検評価WG(2012年度)

大会PD開催一覧：

2012年度：原子力発電所建屋の耐震設計 ―過去・現在・未来―

構造委員会 原子力建築運営委員会 一押しの成果

●【2012年度大会(東海)パネルディスカッション】 2012年9月12日 9:15～11:15 タイトル:「原子力発電所建屋の耐震設計 ー過去・現在・未来ー」

- ・ 2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により東京電力福島第一原子力発電所では、地震により生じた津波を主要因とされる原子力事故が発生。
- ・ 原子力建築運営委員会としては、東北地方太平洋沖地震以降、広く一般への情報発信が必要と考えパネルディスカッションを実施。



- ・ 本パネルディスカッションでは、原子力発電所建屋の耐震設計に絞り、耐震設計の現状や観測記録のシミュレーション解析事例を紹介しながら、本学会の取組みは今後どうあるべきかを議論。
- ・ “過去・現在”を中心とした主題解説の報告を受けて、主に“未来”をテーマに討論を実施。
- ・ 多岐にわたる活発な議論が繰り広げられた。